

教職実践演習のとりくみ

— 特別プログラムの実践例を中心に —

飯野晴美・世良正浩・播本秀史

石井久雄・岡明秀忠（執筆順）

I. はじめに

（飯野 晴美）

本学における教職実践演習の授業は、ひとクラス 20 名程度で行っている。開放性免許法に基づいた教職課程であるため、教職課程履修者数は毎年変動する。このため、少ない年は 17 名前後、多い年でも 25 名前後である。授業は、教職課程専任教員が担当している。半期 15 回の授業のうち、11 回をクラス毎に行い、4 回分の授業を特別プログラムの形式で実施している。

特別プログラムは、学校教育現場とのつながりを深めた内容で、おおむね次の 3 つに大別されている。

- ① 現職の教員が講師を勤める実践的な授業
- ② 中学校などの学校見学
- ③ 教育関連施設等の見学・調査

特別プログラムは、教職実践演習担当教員が企画し、履修者はいずれかのプログラムに参加する。表 1 は、2015、2016 年度に実施した特別プログラムである。本論では、特別プログラムの実践例について、各担当教員が紹介し、検討を行う。

表 1 特別プログラム一覧

2015 年度	2016 年度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科系の指導法 ・ 保護者との関わり方について ・ 品川区立日野学園（施設一体型小中一貫校）見学について ・ 社会教育施設等の実地調査 ・ 社会教育施設等の見学（自習） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科系の指導法 ・ 保護者との関わり方について ・ 品川区立日野学園（施設一体型小中一貫校）見学について ・ 港区立高松中学校の見学 ・ 社会教育施設等の見学（自習）

Ⅱ. 特別プログラムの実践例

1. 現職の教員が講師を勤める実践的な授業

現職の教員を講師として迎え、教員にとって必要なスキルの向上を目指した実践的な授業に参加するプログラムである。

1) 社会科系教科の指導法

(世良 正浩)

① 学習指導案の作成

中学校又は高等学校の授業を想定し、「憲法学習」に関わる単元を設定して、その1単位時間分の学習指導案を、教育実習の研究授業の学習指導案作成の要領を思い出し作成してもらった。学習指導案の統一した様式は設定しなかったが、単元名、単元設定の理由、単元の指導計画、本時の目標、本時の展開、資料・教材の6つの項目を必ず記載することとした。

スクーリングの1週間前までに提出してもらい、世良が簡単な冊子にまとめ、模擬授業の講評を委嘱した現職の教員と参加する学生に予め配布した。その学習指導案の特徴の一端として、単元名と単元の指導計画に提示された本時のテーマを、昨年と今年のものからいくつか紹介する。

教科書の目次や記述に即したものもあるし、教科書にとらわれず独自の発想によるものもある。しかし、両者ともに単元設定の理由や本時の展開の記述に、

教職実践演習のとりくみ

単 元 名	本 時 の テ ー マ
基本的人権の保障と新しい人権	自由権 人身の自由
日本国憲法の基本原理	平和主義
日本国憲法を読む	戦争の放棄と安全保障
人間らしい生活を営む権利	ブラック企業から考える勤労の権利と労働基本権
新しい人権の登場	プライバシーの権利・知る権利・アクセス権

「憲法学習」に対する関心の高いことが表れていた。

② 模擬授業と現職の教員による講評

プログラムの実施日は、公立高等学校の教員に講評を委嘱したため土曜日に設定した。すなわち、2015年11月14日(土)、2016年11月12日(土)、時間は、両年とも13時25分から16時35分までであった。模擬授業の時間を、昨年度、一人につき15分(講評の時間は含まない)とした。当日の参加者は9名であったため、他の学生をタイム・キーパーとして、開始後15分経過した時点で合図してもらった。時間的にタイトであった。今年度は、参加予定者が6名であったため、15分から20分とした。しかも当日、体調不良による欠席者がでたため、タイム・キーパーによる終了の合図は行わなかった。そのため、きりの良いところまで授業を続けてもらうことができた。学校の授業は、開始時間と終了時間が、予め決められていて、その範囲で行わなければならないという特徴があり、その点からは問題があったかもしれないが、時間に制約されず区切りのつくところまで模擬授業を続けてもらえたのは、総合的に判断すれば、良かったと考えている。

模擬授業と講評の終了後、現職の教員による自らの授業の工夫に関するスピーチが行われた。模擬授業のテーマを、「憲法学習」としたこともあって、そのスピーチは、狭義における授業のスキルに限定されず、むしろ教材開発に関わる局面を中心とするものとなった。また、模擬授業に対する講評にも、こ

の傾向が見られた。

③ このプログラムを通して学生が学んだこと

学生は、自身の模擬授業に対する現職教員の講評から何を学んだのか、事後課題として提出してもらった感想文から、この点に関わる記述を紹介する。

- ・「自分の住んでいる街で昔はサツマイモが獲れたんだ、ということに気づくだけでも生徒は興味が湧くのでは」という先生のご助言は大変参考になり、そのように生徒の「日常の感覚」にアプローチしていくことが、このような「昔の事例」を扱う授業ではポイントになると学んだ。
- ・私の今回の模擬授業で考えるならば、「苦役という言葉だけで30分くらい授業できちゃかめ！」というアドバイスを頂いた。教科書に書いてある言葉をそのまま伝えるのではなく、少しでも分かりにくいと思うことがあれば噛み砕いた言葉で分かりやすく伝えることは改めて大切であると思った。

現職の教員による講評は、教材開発のヒントに重点が置かれていたが、この点が、学生に好感を持って受け入れられたことが確認できた。

2) 保護者との関わり方について

(飯野 晴美)

公立中学校の教員を講師として迎え、「保護者との関わり方について」実践的な授業を展開した。

新人教員にとって、生徒との関わりはもちろん、保護者との関わり方も大きな課題である。対人関係を築くことに苦手意識を抱いている学生も多い。年上の人、特に年齢差の大きな人々との関わりを持つ機会が少ない。教育実習においても、生徒や教職員と関わる機会があっても、保護者と関わる機会を得た実習生は稀である。さらに、昨今はモンスターペアレントに象徴されるような、学校に対して非常識な要求を求めたり、ことあるごとに教育委員会に直訴する保護者も見られる。教員を目指す学生にとって、保護者との関わりに不安を抱くものも少なからずいる。このような現状を鑑みて、本プログラムを設定した。

本プログラムのテーマは，“学級担任として，保護者と対人関係を築く”に設定した。受講生を，新年度が始まり，第2学年の学級担任になったと仮定した。保護者への自己紹介（第一印象の形成）や，保護者会の計画を中心に検討した。

① 受講前の課題（学級通信，保護者会の予定表の作成）

始業式の日にあわせて，生徒および保護者向けの学級通信，保護者会（初回）の予定表を作成して提出する（各 A4 版1枚）。校種は自由に設定する。提出された学級通信のコピー（受講生全員のもの）を受け取り，授業当日までに読み，その印象をまとめる。

② 授業について

- ・受講生による，初めての保護者会向けのスピーチ（2～3分程度）
- ・スピーチ，学級通信，保護者会の予定表等について，講師，担当教員や受講生によるコメントと検討
- ・講師による，実践事例の例示と解説
- ・保護者との関わり方，保護者会の進行方法に関する検討と講師による解説

③ 受講後の課題（レポート，学級通信および保護者会の予定表の修正）

授業をとおして，保護者との関わりについて気づいたこと，注意すべき点などについて，まとめる。また，授業時のコメントに基づいて，学級通信および保護者会の予定表を修正し，提出する。

受講後のレポートから，多くの受講生が次のことに気づいたことがわかった。

- ① 保護者会でのスピーチは，とても緊張した。しかし，担当教員のコメントから「保護者も緊張している」ことに気づいた。教員の役割は，保護者会の進行だけではなく，保護者の緊張を和らげることも含まれると思った。講師による，学校生活の写真を見せて緊張を緩和する事例がヒントになった。

- ② スピーチ用にあらかじめ原稿を用意することは大切であるが、それを棒読みしてはいけない。聞き取りにくく、分かり難いスピーチになってしまう。
- ③ 学級通信における、ことば使いの難しさを痛感した。親しみを込めようと言葉づかいを崩しすぎると、保護者に失礼になったり、不信感を抱かれてしまう恐れがあることに、気づいた。
- ④ 文字の読みやすさの観点から、ワープロで作成するのが当然と考えていた。だが、人間味の表出、自由なレイアウトなど手書きの良さもわかった。
- ⑤ 第一印象の大切さに気づいた。服装をはじめ、髪型や色使い、爪やアクセサリーに至るまで、気づかう点が沢山ある。
- ⑥ 保護者の多くは協力的であり、モンスターペアレントなどは少数であることを講師や担当教員のコメントから気づかされた。また、教員の言動や対応が非協力的な保護者を生み出す可能性も理解できた。

2. 中学校などの学校見学

大学の近隣にある中学校など見学し、レポートにまとめるプログラムである。

1) 東京都港区立高松中学校訪問について (播本 秀史)

港区立高松中学校は明治学院大学白金校舎から徒歩5分の所にある。中学校現場との交流を図るに絶好の位置にある。教職課程のスタッフと話し合いそこを「教職実践演習」における交流校の一つに決定し、私が担当者となった。

まず、港区教育委員会に連絡をした。港区と明治学院大学は港区市民講座などで連携がある。「教職実践演習」の主旨を話し、高松中学校とのパイプ役を教育委員会の村上隆史指導主事をお願いした。高松中学校の校長は2014年当時、田邊信雄先生でご快諾くださった。中島副校長先生が中学校での窓口になられた。

教職実践演習のとりくみ

高松中学校という名前は敷地が旧高松宮邸の一部を譲り受けたことに由来する。また、同校の隣は江戸時代、熊本藩細川邸があった。大石良雄以下17名が切腹した時その血を洗った「血洗いの池」が同校に残っている。中島副校長のご案内で学生ともどもそのことを知った。また、全校生徒・教職員が一同に会することのできる食堂のあることも分かった。たいへん恵まれた環境にある学校である。地域住民との交流も盛んとのことであった。学校開放日を設け、また温水プールも地域住民に開放している。地域社会における学校の役割を訪問した私たちは感得できた。学校には独自の歴史といわば人格のようなものがあることを私たちは学んだ。

訪問を機に田邊校長には2014年度、明治学院大学で教職課程主催の文学部講演会で講演をしていただいた。当時訪問した15名程度の学生だけではなく、より多くの教職を希望する学生に聞かせたいと思ったからだ。2015年度から釧持利行校長が新しく赴任されたが、釧持校長も私たちを歓迎してくださりいろいろ便宜をはかってくださる。また、中島副校長からの電話で高松中学校における学生ボランティアの要請があり、明学の学生が入っている。このようにさまざまな場面で交流を深めている。

それでは次に今回訪問させていただいた学生のコメントを抜粋して紹介する。

高松中学校を最初見て、都内にあるのに木々が多く広いと感じた。校舎内は公立校にしては非常に清潔であると感じた。校舎内を見学させてもらっていると、温水プールがあること、冷暖房の体育館があること、学年全員で食べられるランチルームがあること、リーディングアドバイザースタッフが常駐している図書館など充実した設備が整っていることを知った。副校長先生によると、港区の財政が豊かである為だからだそうだ。

校長先生のお話を伺うことができた。教員には4つの基本的な力が必要であることを学んだ。学習指導力、生活指導力・進路指導力、外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力である。

私が驚いたのは、6限目の「職業体験の発表」です。発表している生徒さんが、大きな声ではきはきと話していたことにも驚きましたが、さらに、その発表者に対するその他の生徒さんの質問が1つ1つ適切なことに驚きました。

授業では、3年生の社会の授業が一番印象に残っています。中略。各グループで政党を作ってマニフェストを考えみんな投票という過程はあまり聞いたことがなく、退屈になりがちな選挙の授業を学年全体でのイベント化していて、アクティブラーニングという観点からもとても参考になりました。

見学をした学生は教職希望の強い者たちだったが、それぞれ深く学習した様子が見えよう。現場のもつ力であろう。このように「教職実践演習」における学校見学は大きな意味を有している。

2) 品川区立日野学園見学の概要とその成果

(石井 久雄)

① 日野学園の概要

2006年、公立では全国初の施設一体型小中一貫校として「品川区立小中一貫校日野学園」が開校した。約10年の小中一貫校としての実績をもとに、2016年から「義務教育学校 品川区立日野学園」となった。日野学園の主な特徴は、以下の5つである。第1に、小中9年間で4年—3年—2年のまとまりで区切ること。第2に、5年生から50分授業と教科担任制を行うこと。第3に、5年生から部活動に参加できること。第4に、小学生と中学生の多様な交流を

行うこと。第5に、学習内容を系統的に編成した日野カリキュラムを実践していることである（2016年度版日野学園パンフレット参照）。

このように、日野学園は、小中一貫教育の先駆的な存在であり、学校教育法改正に伴い、いち早く義務教育学校となった学校である。日本における学校改革の一翼を担う日野学園を見学することは、教員を志す学生たちにとって、有意義な体験となると考え、この特別プログラムを設定した。

② 学校見学の概要

2016年11月15日（火）10時に集合し、筆者が引率し、日野学園の学校見学を行った。参加した学生は15名である（事前に、注意事項が掲載されたレジュメと日野学園の資料を配付した）。到着後、校長先生に挨拶をするとともに、校長先生から日野学園の説明をしていただいた（30分程度）。その後、約1時間、副校長先生に校内を案内してもらった。最後に、校長先生に、学生からの質問に答えてもらった（約20分）。12時30分頃に学校を後にした。

③ 学校見学の成果

参加した学生は、今回の学校見学を通して、どのようなことを感じ、何を考えたのであろうか。学生に学校見学に関してのレポートを作成させた。そのいくつかを紹介する。

第1に、校内を見て回ったことに関しての感想、意見である。「教室はガラス張りになっており、廊下から教室内がよく見えるようになっていました。とても授業に集中している様子が見られました。また、休み時間に生徒の前を通り過ぎた時には、とても元気の良い明るい挨拶をしてくれるため、良い雰囲気だと思いました」（女子学生Aさん）。「廊下の面積が広く、生徒たちの創作物が至る所に展示されていて、生徒たちのアチーブメントが常に校内で展示されていた」（男子学生Bくん）。

第2に、校長先生の話聞いたことに関しての感想、意見である。「小学生と中学生が一緒に校舎で学ぶことによって、年長者が年少者に対して、優しく接するという社会性を身につけることができる」（男子学生Cくん）。「小学校高学年から中学校段階の学習や期末テストを導入することによって、中学校段階への適応だけではなく、教員間の連携が図られやすく、教員の指導力向上が図られやすいと考えた」（男子学生Dくん）。

第3に、日野学園を見学して気づいた課題に関してである。「同じ施設で9年間学ぶということは、環境の変化が少なく、新しいことに慣れていくことや、新しいことにチャレンジする機会が少なくなっているように感じた」（女子学生Eさん）。

第4に、学校見学全体を通しての感想、意見である。「貴重な経験ができて良かったです」（女子学生Fさん）。「今回、学校説明や見学をさせて頂いて、非常に勉強になったので良かった」（女子学生Gさん）。「私もいつか教員になれるように頑張ろうと、改めて思うことができました」（男子学生Hくん）。

今回の学校見学で、学生たちは、様々なことを考えるきっかけになったようで、概ね好評であったといえよう。貴重な機会を与えて頂いた校長先生をはじめ、日野学園の先生方には、この場を借りて御礼を述べたい。

3. 教育関連施設等の見学・調査

教育関連施設等を見学・調査し、中・高校生の校外学習の指導計画を作成するプログラムである。

1) 教育関連施設等の見学・調査

(岡明 秀忠)

大学教員の指導の下、学生が教育関連施設等を見学・調査し、中・高校生の校外学習の指導計画を作成するプログラムである。

筆者は、2015年度、本プログラムを担当し、3つの活動（①事前レポートの

作成、②見学・調査〈班活動〉、③パワポによる報告〈班活動〉、④感想文の作成)をおこなった。

見学・調査をおこなう教育関連施設に関しては、身近な地域を意識し、大学周辺に設定した。歴史的建造物として高輪大木戸跡、泉岳寺、庭園美術館を、教育施設として自然教育園を対象施設とした。

① 事前レポートの作成:下調べとして、レポートを提出させた。

- a) 高輪大木戸跡、泉岳寺、自然教育園、庭園美術館についてインターネット、図書館の百科事典、下記の参考文献などで情報を集める。
- b) 1,500字程度(A4用紙、一枚程度)でWordにうまくまとめる。

アイランズ 東京の戦前・昔恋しい散歩地図2 草思社 2004年 帝国書院編 地図で訪ねる歴史の舞台 日本 帝国書院 2009年 安藤優一郎 超雑学読んだら話したくなる 江戸・東京の歴史と歴史 日本実業出版社 2010年 中江克己 歴史と風情を愉しむ 江戸東京の地名散歩 KK ベストセラーズ 2012年 今尾恵介監修 5mメッシュ・デジタル標高地形図で歩く 東京凸凹地形案内 平凡社 2012年 竹村公太郎 日本史の謎は『地形』で解ける PHP 文庫 2013年 市ヶ谷ハジメ他 東京のれきし 道路・鉄道、まちづくり編 双葉社 2014年 市ヶ谷ハジメ他 東京のれきし 繁華街・主要建築物編 双葉社 2015年 清水克悦 ぐるり19駅からさんぽ 山手線謎解き街歩き 実業之日本社 2015年 竹内正浩 写真と地図でめぐる軍都・東京 NHK 出版 2015年 津川康雄監修 地図で読み解く江戸・東京 江戸の暮らしが見えてくる 技術評論社 2015年 光村推古書院編 重ね地図シリーズ 東京:マッカーサーの時代編 光村推古書院 2015年
--

まとめる際の参考例(高輪大木戸跡 大木戸って何?)も簡単に載せた。

② 見学・調査:学生を3~4人の班に分け、大まかな計画を考えさせ、班毎に出発させた。

教職実践演習のとりくみ

	場 所	内 容
1 限	白金校舎本館 6 階 教職課程多目的 R	10:00 集 合：班分け, 諸注意, 計画の検討 10:30 出 発
2-3 限	高輪大木戸跡, 泉岳寺, 自然教育園, 庭園美術館	10:30-14:30 見学・調査 & 報告の段取り (含む昼食)

- ③ パワポによる報告：スマホなどで写した画像をもとに、報告をおこなわれた。

	場 所	内 容
4 限	白金校舎本館 6 階 教職課程多目的 R	14:30 集 合：報告の準備 15:15 報告会：班毎に 5 分程度 16:00 解散

- ④ 感想文の作成：感想文を課し、後日提出させた。
- a) 事前レポートの作成，見学・調査，パワポによる報告を振りかえる。
 - b) 1,500 字程度（A4 用紙，一枚程度）で Word にうまくまとめる。

事前レポートでは、印刷物からよりもインターネットからの「コピペ」が多かった。それらは雑多な情報が多いので、十分にまとめ切れていなかった。

しかし、パワポによる報告準備中、「実際に行ってみると、思わぬ発見をしました」という感想を聞いた（感想文にも書かれていた）。実際の報告も上手くまとめられていた。

4カ所の見学・調査場所を指定したが、地図が読めず、まわりきれない班があった。スマホ等を持っているので、出発前の地図指導を細かく行わなかった。「地図をどのように活用するか」に気づいてくれたことが大きな成果であった。

2) 社会教育施設等の見学（自習） （飯野 晴美）

本プログラムは、中・高校生を対象とした校外学習の指導計画を作成し、実際に社会教育施設を実地調査することである。受講生が、都合の良い時間に、

教職実践演習のとりくみ

社会教育施設を2,3箇所見学し、校外学習の指導計画を作成し提出する。

本プログラムの受講生には、あらかじめ「校外学習プログラム報告書の手引き」（付録1参照）と「校外学習プログラム報告書」の用紙（付録2参照）が配布される。

受講生が提出した「校外学習プログラム報告書」から、自習のため、課題の深め方が受講生によってかなり異なっていることが判明した。

- ① 本プログラムのテーマが、社会教育施設の見学と勘違いしている受講生がいた。報告書の内容も、見学後の感想を記述しただけのものであった。
- ② 社会教育施設の選択にあたり、「校外学習」のテーマに見合った施設を適切に選んでいる受講生もいれば、地理的に近いという理由だけで選択しているものもあった。
- ③ 引率する教員の立場で施設やルートを検証するということが、十分に理解できていない受講生もいた。
- ④ 実現にはかなり無理があると思われる計画もあった。

なお、本プログラムが設定された背景には、本学における開放性の教職課程がかかえる次の課題があった。

- ① 受講生総数が、年度によって変わる。
- ② 卒業後すぐに教員をめざす学生は、1割～2割程度である。
- ③ 多くの学科の学生が受講しているため、すべての受講生にとって都合がつかなく校外学習の時間が設けにくい。
- ④ すべての受講生が、学校見学や実践的な授業に参加する仮定すると、見学の受入れ校や講師、引率等をする教員の負担が大きすぎる。

教職実践演習の授業は、教員養成系大学や教員免許状の取得が卒業要件に含

まれている教育学部などを想定して、設定されたものと推測される。

Ⅲ. おわりに

(飯野 晴美)

教職実践演習の授業が開始されてから4年目を迎えた。「教員として教壇にたつ前の最終仕上げ」という面持ちが明確にだされた科目である。はたして、その目的をどこまで達成できているかは、教職課程履修者全員を母数とすると疑問の余地は残る。しかし、教員免許状を取得する目的がさまざまである学生を対象とした本学の教職課程として、最大限の創意工夫をこらして生み出した授業形態である。

近年、公立学校の教員採用に際し、事前講習等の受講者や大学推薦等を受けた受験者に対して、一次試験（主に、知識を問うペーパーテスト）を免除するケースが多くなった。一次試験免除となっても、知識を確実に身につけようと努力する受験生は少数派のようである。教職実践演習の担当者として、「試験のための勉強」を超えたスタイルとともに、幅広い教養と社会的常識を身につけたひとりとしての成人を大学から送り出すことが、最も重要な役割であると切に感じた。

教職実践演習のとりくみ

付録1 2016年度 「校外学習プログラム報告書作成の手引き」

1. 実地調査記録

実地調査を円滑に進めるため、学校の所在地を明治学院大学白金校地に仮想し、「校外学習プログラム報告書」を作成してください(学校の所在地は変更しても構いません)。

実地調査施設の例を参考にして、2箇所程度、実地調査をおこなってください。

教職実践演習クラス担当教員に、実地調査日と実地調査終了の報告をしてください。

事前予約が必要な施設もあるので、休館日、開館時刻等を事前によく調べてください。

実施予定日は、実地調査日ではなく、仮想した中・高校生の校外学習実施日を記入してください。2016年度中の日付とし、見学予定施設の休館日と重ならないように注意してください。

一人で実地調査をしても構いませんが、数人で一緒に実地調査しても構いません。報告書は、各自で考え、教職実践演習クラス担当教員に提出期限までに提出してください。

2. 目標

前項で想定した学校種、対象の教科等に対応する『学習指導要領』の記述、見学施設の目的や性格を踏まえて、目標を設定してください。

3. 服装・持ち物

中・高校生向けに書いてください。

交通費、入場料、昼食代を含めるかなどを考え、小遣いの金額を考えてください。

持ってきてはいけない物を列挙しても構いません。

4. 注意事項・マナー

中・高校生向けに書いてください。

5. 日程表

時刻に集合時刻、見学開始時刻、解散予定時刻を記入してください。

5. 日程表	時刻	実地調査施設の名称及び所在地、移動手段等
集合	8:30	<input type="checkbox"/> 駅改札 <input type="checkbox"/> 駅→○ 駅 徒歩で△△博物館に移動
見学	9:30	△△博物館見学(班行動) △△博物館1階ロビー集合、徒歩で□□商店街に移動
昼食等	12:00	<input type="checkbox"/> 商店街にて昼食(班行動、班で店を選ぶ)

教職実践演習のとりくみ

6. 半券・資料等貼り付け場所

うまく貼り付けてください。貼り付けられない人は最後の頁上部に貼ってください。

7. 実地調査施設の概要

日程表に掲げた実地見学施設毎に書いてください。

事前調査や実地調査でわかったことを上手にまとめて記入してください。

8. まとめ

実地調査の感想と反省点を上手にまとめて記入してください。

実地調査施設の例

☆東京都

施設名	住所	最寄駅	区
紙の博物館	王子 1-1-3	王子	北区
江戸東京博物館	横綱 1-4-1	両国	墨田区
郵政博物館(東京ソラマチ)	押上 1-1-2-9F	東京スカイツリー, 押上	
国立科学博物館	上野公園 7-20	上野	台東区
東京国立博物館	上野公園 13-9		
国立西洋美術館	上野公園 7-7		

同様に、東京都 45 施設、神奈川県、千葉県、埼玉県 各 22 施設が記載されている。

教職実践演習のとりくみ

付録2 2016年度 「校外学習プログラム報告書」

提出日 年 月 日	学籍番号	氏名	
--------------------	------	----	--

1. 実地調査記録(2箇所程度)			
施設名	実地調査日	月	日
			調査時間： 分
施設名	実地調査日	月	日
			調査時間： 分
施設名	実地調査日	月	日
			調査時間： 分

実施予定日	年 月 日
学校種	<input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校
学 年	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年
対象の教科等	<input type="checkbox"/> 社会科系 <input type="checkbox"/> 英語科系 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動
校外活動の名称	

2. 目標(2つ程度)
①
②
③

3. 服装・持ち物

教職実践演習のとりくみ

4. 注意事項・マナー

5. 日程表

	時刻	実地調査施設の名称及び所在地，移動手段等
集合		
見学		
昼食等		
見学		
解散		

6. 半券・資料等貼り付け場所

教職実践演習のとりくみ

7. 実地調査施設の概要



- 3 -

8. まとめ



学籍番号		氏名	
------	--	----	--

- 4 -